奈良教育大学紀要　第41巻 第1号（人文・社会）平成4年
Bull. Nara Univ. Educ., Vol. 41, No. 1 (Cult. & Soc.). 1992

日本語教材における機能シラバスについて

澤　田　田津子
（奈良教育大学言語文化教室）
（平成4年4月30日受理）

1．は　じ　め　に

日本語教育の分野でも最近ではコミュニケーション法導入について様々な研究がされ、各機関においてその成果が試されるようになってきた。しかし、現実的には練習法などの教室活動の面での改革はすすんでいるものの、教材・教科書についてはまだ試行段階であるようだ。その理由の一つとして、日本語を「機能シラバス」に基づいて教える場合、具体的にはどんな文をどんな順序で教えていくか、ということについて議論がまだ充分でないということがある。コミュニケーション法を背後から支えるためには、やはり「機能シラバス」に基づいて書かれた教材が必要なのではないか、ということは既に述べたとおりである(1)。ここ数年、“Functional” と銘打った教科書が数冊発表されたが、まだまだその数は少なく、内容的にも調整段階にあるものと思われる(2)。

本稿では、もともと英語を外国語として学ぶ人のために考えられた、J. A. van Ek の機能シラバスをモデルとして、日本語の機能シラバスを考える(3)。次にそのシラバスに、従来から広く用いられている「構造シラバス」で用いられる「文型」を当てはめてみる。更に場面シラバス及び話題（トピック）シラバスとの複合化による、初級教材用の総合的シラバスを考えてみたい。

2．機能シラバスにおける日本語の具体的例文

J. A. van Ek が提案した(4)、言語をその機能によって分類した「機能シラバス」に基づいて、日本語の場合は、どんな文がその「機能」に相当するかについて考えたのが以下のものである。ここでは「構造シラバス」で用いられる「文型」の形式をとって文を表してある。そうすることによって、構造シラバスとの対比ができ、構造シラバスからの移行も容易だと考えるからである。ただし機能シラバスの場合は、構造シラバスのように「文型」化しても、NやVのところに全ての語彙があてはめられるわけではなく、その機能を表す文の数はかなり限られたものになるのである(5)。

また、一つの文がコンテクストによって複数の機能を果たすことが普通なので、構造シラバスのように、ある文型が一回でてくるのが普通というようなことはない。また、とりあげた文型は初級のものを中心に選んであり、中級以上の文についてはここでは扱わない。

言語機能による分類

（言語機能の分類については、J. A. van Ek による。）
（〔　　　〕内は筆者が要約した用語）

以下の項目だては注（4）によるが、これは英語を外国語として教える場合を想定してあるため、日本語の場合には少し過不足が生じるようである。付け足した方が良いと思われる機能については、各欄の最終に◎印をつけて書き加えた。

また、文型の記述の仕方は、きわめて大雑把である。すなわちNは名詞、Vは動詞、Aは形容詞、Naは形容動詞のそれぞれ略号である。また例えば動詞の活用形については文型の中では表していない。(例えば、「V. masu-stem＋たいです」のようには書かず、単に「Vたいです」のように略記した。）更に、I－1などでは、該当する文型が非常に多い為に、略号による文型表示によらず、「肯定文」「受身文」などというようにまとめ、具体的な文型を省略した。

文型としては取り出せない、いわゆる慣用的な表現、コミュニケーション・ストラテジーなども積極的に導入するのが、機能シラバスによる導入の際には一般的であるので、ここにもそういった文をいくつか掲げた。それらには各文の前に＊印をつけて示した。

I　事実に関する情報の伝達と請求〔情報伝達、情報請求〕

1　同一性の確認、報告（記述すること、物語ること、訂正すること、質問すること）

- 記述する：肯定文、否定文、過去文、受身文、使役文、可能文、指示詞、人称代名詞、などの記述文体
- 物語る、報告する：～なんです/～だということです/～そうです/～ようです
- 訂正する：～ではありません/～じゃなくて、・・です/否定文/だれも、何も、どこも、/ちがいます
- 質問する：選択疑問文/＊イントネーション/疑問詞/＊～について話してください/＊～でしょう？/～か　どうか　～か

II　知的態度の表明と発見

1　賛成、不賛成の表明

はい、そうです/いいえ、そうではありません/
＊ああ、そうですね/＊それはいいですね/
・・・と思います/・・・とは思いません/あまり・Vたくないんですが/
＊賛成！　そうしよう/＊まったくですね/＊そのとおりですね/
＊えっ　そうでしょうか/＊それはちょっとおかしいと思います/
＊どうも・・・

2　賛成、不賛成の質問

・・・と　思いますか/・・・では　ありませんか/あなたは　どう思いますか/・・・だと思うんですが、いかがですか/・・・と思いませんか/・・・の考えに賛成ですか/＊・・・でしょう？

3　ある事柄の否定

名詞・形容詞・動詞の否定文、過去の否定文
＊とんでもない/＊ちがいます/＊そんなことはありません

4　提案や招待の承諾〔承諾〕

Vましょう/Vてもいいです/Vたあとで、文/
＊よろこんで・・・します/＊ありがとうございます/

＊それは　うれしいですねえ/＊いいですよ/
＊それはいいね/＊うん/V たいと　思っていたところです/
V させていただきます/そうしましょう/わかりました　V ます

5　提案や招待の辞退〔辞退〕
～に（行きます・来ます・帰ります）から、/N のほうが（Ai/Na）です/
A くて、だめです/V なければなりませんから/
V つもりなので/わたしは　～が＋可能否定　ので/V よていなんです/
＊ごめんなさい/＊ざんねんですが、/＊けっこうです/もう・Vましたので、/
＊だめだめ/＊せっかくですがすみません。いま忙しいんです。/
＊あいにく都合が悪いんです/＊また　次の機会にでも

6　提案や招待の承諾・辞退の質問〔提案、招待〕
V ませんか/V ましょう/V てください/V てくださいませんか/
～は　いかがですか/～ていただけませんか/～たらどうですか/
～て　いただきたいんですが。

7　ある事柄をする申し出〔申し出〕
V ましょうか/わたしが V ます/V せていただけませんか/
V てあげましょう

8　ある人物、ある事柄の記憶、忘却についての陳述、または質問〔回想、確認〕
N 1 は N 2 ですか/
たしか N 1 は N 2 でしたね/「あれ」/V たものです/
～V てしまいました/おぼえています/～のはずです/わすれました/
～たかどうか　知っていますか/

9　ある事柄の可能・不可能の表明または質問〔可能性〕
可能形/自動詞/〔場所〕で　N ができます（か）

10　能力の有無の表明または質問〔能力〕
N 1 は N 2 ができます（か）/N 1 は V ことができます（か）/
可能形

11　ある事柄の結論（推論）が論理的であるか否かの表明または質問。〔推論〕
～わけです（か）/～のはずです（か）

12　ある事柄についての自分（他人）の確信・不信の表明または質問〔推量〕
～と思います（か）/どう思いますか/たぶん　～でしょう/
～かもしれません/きっと～にちがいありません/～でしょうか

13　自分がある事柄をする義務の有無の表明または質問〔自己の義務〕
V なければ　なりません（か）/V ないといけません（か）/
V なくてもいいです（か）/V 必要があります（か）/

14　他人がある事柄をする義務の有無の表明または質問〔他者の義務〕
V べきです/～は～するものです/N は　V なければなりません（か）

15　ある事柄をする許可の付与および請求〔許可求め、許可〕
V てもいいです（か）/V なくてもいいです（か）/V たいんですが・・・/
V させていただけますか/＊どうぞ/＊かまいませんよ

16 ある事柄を他人がする許可の有無の質問〔他人に対する許可求め、許可〕

N 1 は N 2 ができます（か）/X さんに〜してもらってもいいです（か）/

X さんは〜してもいいですか？ /＊いいですよ/＊どうぞ

17 許可保留の陳述〔許可保留〕

＊きいてきます/＊考えておきます/＊いまわかりません/＊少しまってください

Ⅲ 感情的態度の表明と発見〔感情的表現〕

1 喜び、好意の気持ちの表明および質問〔喜び、好意〕

N は Ai です（感情形容詞）/N 1 は N 2 が Ai です/

N 1 は N 2 が好きです/すごく、たいへん 等の副詞、/

よろこんで、すばらしい/V こと、V のが/等

2 不快、嫌悪の気持ちの表明および質問〔不快、嫌悪〕

N は Ai です（感情形容詞）/N 1 は N 2 が Ai です/

N 1 は N 2 がきらいです/＊きもちわるい/あまり〜じゃない

3 驚き、希望、満足、不満足の気持ちの表明および質問〔驚き、希望、満足、不満足〕

なんて〔A・Na〕んだろう/＊わぁーっ、すごい/＊へぇー〔驚き〕

V たいです/V てほしいです/V てもらいたいです/＊・・なるといいのに〔希望〕

〜てよかった/＊気にいる/＊これでいいです/〜てよかった〔満足〕

4 失望、恐れ、心配の気持ちの表明および質問〔失望、恐れ、心配〕

〜て残念です/＊がっかりしました〔失望〕

〜なのではないでしょうか/＊だいじょうぶかなあ〔恐れ〕

〜かどうか心配です/〜のではないか、と思います〔心配〕

5 好みの順位の表明および質問〔好き、嫌い〕

N 1 は N 2 より〔Na・Ai〕です/N 1 のほうが〜です/

N 1 と N 2 と どちらが〔Na/Ai〕ですか/

〜ではなく、むしろ〜のほうがいい/〜がいちばん〜です

6 感謝と同情の気持ちの表明〔感謝、同情〕

＊ありがとう/＊よかったね/＊残念でしたね/＊お礼申します/

＊それは大変でしたね/＊頑張ってしださい/＊さぞ〜でしょう

7 意図の表明および質問〔意図〕

V つもりです/V たいと思っています/V うと思っています/〜の予定です/

どんな予定ですか/V うとお思いですか/V ますか

8 欲求の気持ちの表明および質問〔欲求〕

V たいです/V てほしいです/V てください/V てくれませんか/

＊〜はいかがですか/V たいと思いますか

Ⅳ 道徳的判断の表明と発見

1 釈明

＊申し訳ありません/＊ごめんなさい/＊どうもすみません/
＊実は〜なんです/

2 容赦
＊いいですよ/＊もうよろしい/＊気にしないでください/＊わかりました。

3 承認・否認の表明および質問〔承認、否認〕
＊よくできました/＊いいです/＊わかりました/
＊あまりいいとは思いません/＊もうひとつですね/＊あまり感心しません/
＊これでいいですか/＊どう思いますか

4 感謝の念の表明〔感謝〕
＊ありがとうございました/＊感謝します/＊すみませんでした/
＊心からお礼を申します

5 後悔の念の表明〔後悔〕
＊〜てとても残念です/V なければよかった/V んじゃなかった

6 無関心の態度の表明〔無関心〕
〜については関心がありません/＊興味がありません/
＊わかりません/＊どうでもいいです/＊考えたことがありません

V 行為への働きかけ

1 （話し手も含めて）とるべき行為の提案〔行為提案〕
V ませんか/V ましょう/〜はどうですか

2 ある事柄をするようにとの他人への依頼、勧誘、助言〔依頼、勧誘（招待)、助言〕
V てください/V ていただけますか/V てもらえませんか〔依頼〕
V ませんか/ぜひ V てください〔勧誘＝招待〕
V ほうがいいですよ/V べきだと思います/V たら・ればどうですか〔助言〕

3 ある事柄に注意をするよう、あるいはある事柄をするのを控えるようにとの他人への警告〔警告〕
＊注意してください/＊〜に気をつけてください/V ないほうがいいですよ/
V ないでください/V たら〔危険・危ない〕ですよ/やめなさい

4 ある事柄をするようにとの他人への指導または命令〔指示、命令〕
V てください/V なさい/V の命令形/V べきです/V たほうがいいです/
V なければいけません

◎5 依頼に対する断り
＊今、ちょっと・・/すみません、いま V ているんです/V できないんです

◎6 依頼に対する受諾
（よろこんで）V ます/＊いいですよ/＊わかりました/＊承知しました

VI 社会生活の円滑化

1 人との挨拶〔日常の挨拶〕
＊こんにちは/＊おはよう（ございます）/＊こんばんは

2 人に出会ったとき〔出会いの挨拶〕

＊上記１＋元気ですか/＊おかげさまで、あなたは？/＊どちらへ？/
＊ちょっとそこまで/Aくなりましたね/天気の話題

3 人を紹介するとき、人に紹介されたとき〔紹介の挨拶〕
こちらは・・さんです/（所属）の・・（さん）/＊はじめまして/
＊どうぞよろしく/＊こちらこそ

4 別れを告げるとき〔別れの挨拶〕
＊さようなら/＊では、また/＊バイバイ/＊じゃあ/＊失礼します

5 注意の喚起
＊すみません/＊ちょっと/＊しつれいですが/＊もしもし

6 食事を始めるとき〔食事の挨拶〕
いただきます/＊ごちそうさま

7 乾杯の音頭
＊（・・・のために/・・・を祝って）かんぱい

3．場面シラバスと話題シラバス

2．の機能シラバスに取り上げた文を構造シラバスの観点から考えると、どうなるだろう。2の文には、構造シラバスで「文型」として取り上げ、教えているものと、コミュニケーション法で「コミュニケーション・ストラテジー」と呼ばれているものとが、混在している。

構造シラバスを使って教える場合、ダイアローグによる導入が多いが、「文型」だけを取り出して、易から難へと順次教えていくことも可能ではある[6]。しかし、コミュニケーション法の場合、そのような導入は考えられない。したがって必ず新しい文の導入には、何らかの状況設定が必要になってくる。具体的には、やはり会話文もしくは、談話型による導入になるだろう。従って、機能シラバスに基づく教材を作ろうとすれば、「状況」と「機能」を何らかの形でうまく融合させて、日本語の大枠を効果的に導入していかざるを得ない。

では、どのような「状況」がどの「機能」にマッチしているだろうか。これは必ずしも一つの答えに限られたものではない。しかしどんな機能を導入するにせよ、「状況」には、「場面」と「話題」が必要である。そこで、従来日本語の教材では、どんな場面、話題が扱われてきたかを調べてみることにする。

3.1. 場面シラバス

ここでは初級教材に限り、しかも主教材として教室で使われることを前提とした教科書を作成することを想定して、場面シラバスを考えてみたい。

次にあげる場面シラバスは、導入順については、まだ整理されていないものとする。○印はビジネスマン用のコースにおいて適当と思われる項目、△印は、大学の留学生（初級であるので、日本人学生と同様に学ぶ学生ではなく、交換留学生等の、大学で初級の日本語を学ぶ学生）用の項目、無印は共通に使用可能な項目、ということにする。なお、このシラバスを考えるにあたっては、既存の初級教材を参考に[7]、筆者の考えも加味してまとめた[8]。

以上のような前提でシラバスを考えるが、今回は上記の二つのタイプ以外の学習者用のコースでのシラバスは扱わない。（例えば、中国からの帰国者コース、短期滞在の旅行者コース、等）

なお、就学生については、初級においては△印に準ずると考えられよう。

1△	教室の中	2○	職場
3	食堂など、飲食店	4	お寺
5	公園	6	路上
7	友達の家	8	パーティーの会場（友人宅、自宅等）
9	車の中	10	映画館
11	電話	12	個人商店
13	旅行会社	14	自分の部屋の中
15	郵便局	16△	ＬＬ教室
17	不動産屋	18	駅の改札口
19	病院	20	電車やバスの中
21△	ホームステイの家庭	22	タクシーの中
23	デパート	24○	ホテル
25	面接会場	26△	学生会館
27	駅のホーム	28	喫茶店
29	観光地	30	交番
31	バス停	32	空港

3.2. 話題（トピック）シラバス

次に、3.1. で扱った場面において、どういう言語機能が導入できるかを考えなければならないが、その際にできれば、トピックについてもシラバス化しておくほうが良いことは自明のことだろう。コミュニカティブ・アプローチにおいては、言葉を短文として切り離すのではなく、談話として実際の使用場面に近づけつつ教えなければならないが、実際の使用場面には必ずなんらかのトピックがあるからである。

さて、日本語教育においては、どういうトピックが考えられるのかを 3.1. の場合と同じように、既存の教科書から抜き出してみた[7]。

1	時間・曜日・月日	2	値段
3	所在	4	日常生活
5	体験、経験を語る	6	自己紹介
7	写真	8	社寺仏閣について
9	将来の予定について語る	10	本を借りる
11	プレゼント・贈答	12	火事
13	車・ドライブ	14	客を迎える
15	友達を家族に紹介する	16	手紙の書き方
17	おつかい	18	仕事の割り振り

19	被害（盗難、事故など）	20	給料・ボーナス
21	病気と健康	22	大学生
23	住宅・通勤	24	おまつり
25	勤務先の会社について	26	食事・料理
27	商品、品物	28	音楽
29	スポーツ	30	読書
31	申込み	32	規則
33	旅行	34	家族について
35	希望について	36	学生生活
37	日記を書く	38	引っ越し
39	進路	40	訪問
41	仕事、求職	42	取扱説明書
43	デート	44	手紙
45	予約	46	野球
47	工場見学	48	身の上相談
49	衣服	50	通信（電話・新聞・TV・郵便　等）
51	行政	52	文学
53	求婚・結婚・離婚	54	クレジット・消費
55	レジャー・趣味	56	宗教・信仰
57	感情の表し方	58	天候

4．複合シラバス

3.1及び3.2で検討した三つのシラバスをあわせて、現実としてどのような初級教材用のシラバスが考えられるかをこの章で考えてみたい。今回、対象として考える学生は、日本国内で日本語を学ぶ留学生もしくは就学生とする。

シラバスを考えるにあたっては、次の点を重視して配列した。

(1)　言語機能は一回ですべての文を教えることはできないので、一つの機能を何回も取り上げて、様々な文を少しずつ導入できるようにする。

(2)　言語機能を優先して導入するといっても、できるだけ、文法的にも従来どおりの配列（易ら難へ、単純から複雑へ）をこわさないように考えた。

(3)　いわゆるコミュニケーション・ストラテジーについても、トピックに応じて配列した。ただし、ここでは「会話表現」という項目でまとめ、文型として取り出せない文とともに並べてある。

(4)　言語機能と、場面・トピックとの組合せについては、初級の場合あまり必然的な相関関係はないと言われている[9]。従ってここでの組合せも一例にすぎない。

(5)　今回は紙面の都合もあり、具体的な例文、会話文を書くまでには到っていない。従って、今後、このシラバスにもとづいて具体的に教科書を作る段階で、修正を余儀無くされる部分が多いことも予想される。

〔日本語初級教科書のシラバス——機能シラバスをを中心とした複合シラバス——〕

<table>
<tr><th>課</th><th>トピック</th><th>機　能</th><th>文　型</th><th>会話表現</th><th>場所</th></tr>
<tr><td>1</td><td>自己紹介</td><td>1. 物語る、報告する①
2. 質問する①
3. 日常の挨拶
4. 訂正する①</td><td>• NはN（名前、国籍、身分）です／ですか／ではありません。
• NのN（所属）
• Nも～です
• Nは？</td><td>• おはようございます
• こんにちは
• こんばんは
• はい、そうです
• いいえ、ちがいます
• どうぞよろしく</td><td>教室又は職場</td></tr>
<tr><td>2</td><td>初対面</td><td>1. 物語る、報告する②
2. 質問する②
3. 出会いの挨拶
4. 紹介の挨拶</td><td>• こちら、そちら、あちら、どちら
• 親族の名前
• どなた
• Aiですね</td><td>• はじめまして
• こちらこそ
• ○○さん
• ええ、そうですね
• そうですか？</td><td>パーティの会場</td></tr>
<tr><td>3</td><td>休日の相談(1)〔曜日•旅行〕</td><td>1. 物語る、報告する③
2. 賛成、不賛成①</td><td>• NはAi／Naです
• NはAi／Naですか
• これ、それ、あれ、どれ
• この、その、あの
• NのN
• 形容詞の否定形</td><td>• ～はどうですか
• それはいいですね
• そうしましょう
• これはちょっと
• ～にします</td><td>寮の部屋の中</td></tr>
<tr><td>4</td><td>休日の相談(2)〔レジャー〕</td><td>1. 申し出①
2. 依頼①
3. 婉曲的断り①
4. 別れの挨拶</td><td>• Vましょうか
• Vましょう
• Vます
• Vません
• 時刻の表し方</td><td>• おねがいします
• けっこうです
• わたしがVますから
• どうもありがとう
• さようなら
• じゃあ、また明日</td><td>寮の部屋の中</td></tr>
<tr><td>5</td><td>住居を探す</td><td>1. 物語る、報告する④
2. 質問する③
3. 好き嫌い①
4. 勧誘</td><td>• ～に～があります／か
• NよりNのほうがA／Naです／か
• NとNとどちらがA／Naですか
• Vませんか
• ～から～までXかかります
• ～の（やすいの）</td><td>• そうですねえ（考える時）
• ～など（なんか）どう（いかが）ですか
• もっと</td><td>不動産屋</td></tr>
<tr><td>6</td><td>料理について</td><td>1. 喜び、好意①
2. 不快、嫌悪①
3. 好き嫌い②
4. 質問する④
5. 食事の挨拶</td><td>• NはNがすき／きらいです／か
• 程度の副詞
• ～の中で「疑問詞」がいちばん～ですか
• ～がいちばん～です</td><td>• ～にします
• すみません
• もうしわけありませんが
• ごめんなさい
• ～をいただきます
• お待たせしました
• いただきます
• ごちそうさま</td><td>レストラン</td></tr>
<tr><td>7</td><td>買い物</td><td>1. 行為提案①
2. 賛成・不賛成②</td><td>• 形容詞・形容動詞の否定、過去、過去否定
• 値段の言い方
• ～が、けど、から
• N1とN2、N1やN2</td><td>• いらっしゃいませ
• ～にいたしましょう
• おにあいです</td><td>ブティック</td></tr>
</table>

8	天候・気候について	1. 質問する⑤ 2. 物語る、報告する⑤ 3. 可能性	• 天候に関する動詞の「〜ています」形 • 頻度の副詞 • 可能性を表す動詞（食べられる、泳げる、スキーができる等）	• うっとうしい • むしあつい • 〜について教えてください • それはいいですね	電車の中
9	贈答、経験	1. 意図① 2. 感謝① 3. 喜び、好意② 4. 物語る⑥	• NはNにあげ／くれ／もらいます • Vました／ませんでした • 〜なんです（すきなんです） • 〜に〜がありますね • Vつもりです • 〜がほしいです • なにか ＆ なにも	• ありがとう • お礼申します • 〜てありがとう	デパート
10	なくし物	1. 物語る⑦ 2. 質問する⑥ 3. 否定① 4. 確認 5. 感謝②	• Ai＋N • Na＋N • 位置を表す語 • 〜にありませんでしたか	• 〜て申し訳ありませんでした • お世話かけます	交番
11	旅行の計画	1. 提案、招待 2. 行為提案② 3. 警告① 4. 欲求 5. 注意の喚起①	• NはVたいんですが、（行く、来る、帰る）その他の動詞 • 〜はどうですか • 〜Vた／ないほうがいいです • いつ、日時、曜日	• すみません • ちょっとおねがいします • 気をつけてください • 注意してください	旅行社
12	見学する	1. 許可求め 許可する 2. 他人への許可求め、許可 3. 許可保留	• 〜てもいいです／か • Vたいんですが、 • 〜ことになっています • 〜かどうかきいてみます • Nは〜と言っていますが、いいですか	• ええ、どうぞ • いいですよ • かまいません • こまります • それはちょっと… • おそれいりますが、	工場又は観光地
13	仕事	1. 依頼② 2. 断り② 3. 承諾 4. 自己の義務 5. 釈明 6. 容赦	• Vてください／くださいませんか • Vなければいけません／ませんか • Vているんです • VてからVます • V（可能形）の否定文	• すみませんが • あいにく • じつは…… • はい、わかりました • 〜なんです • 〜ので、	職場
14	パーティの計画	1. 賛成、不賛成③ 2. 推量	• 〜と思います／か（動詞の普通体） • Vでしょうか • 〜かもしれません • 〜でしょう • 推量の副詞	• どう思いますか • こまったなあ • どうしよう	寮で
15	祖国について	1. 物語る⑧ 2. 訂正する② 3. 否定② 4. 質問する⑦ 5. 無関心 6. 驚き	• 〜かどうか知っていますか • 〜がV受身ています • 〜じゃなくて〜です • 〜には興味がありません • 〜なんです（普通体）	• 本当ですか、 • それはおもしろい • それはそうです • わかりません • へえ、そうですか	友人宅で写真を見ながら

16	引越し	1. 申し出② 2. 依頼③ 3. 物語る⑧ 4. 質問する⑧	• Vさせてください • Vていただけますか • Vてもらえませんか • Vtてあります • Viています	• おねがいします	新居
17	病気・健康	1. 不快② 2. 同情 3. 助言 4. 警告② 5. 命令指示	• NはNがいたい、かゆい、等 • Vたら～ます • Vたり、Vたりします • Vてはいけません • Vないでください	• どうしましたか • 具合が悪い • さぞ～でしょうね • お大事に	保健室 又は病院
18	スポーツ	1. 不満足 2. 失望、恐れ心配	• 間接受身文 • ～じゃないか、と心配です • ～なければいいですが	• 人気がある	喫茶店
19	将来の計画希望	1. 意図② 2. 回想 3. 満足	• Vる時～ • Vた時、～ • Vたものです • ～て、よかったです • Vたら～	• お世話になりました • お元気で • さようなら • また、ぜひ来てください • ～さんによろしく	空港

以上が、機能シラバスを軸に、話題シラバス及び場面シラバスを組合せ、それに従来用いられてきた文型を当てはめたものである。この一覧表では一つの機能が何度もでてくることもあれば、一回しかでてこないこともある。なお、一度もでてこなかった機能は、以下の通り。

「能力」「推論」「承認・否認」「後悔」「乾杯の音頭」

このうち、「能力」については、そこで出てくる文型や動詞の活用形は、「可能性」のところでほぼ出てくるといえる。また、「断り」の機能を表すにも可能形の否定形を使う場合がある。（第13課）したがって、直接「能力」について質問したり述べたりすることについては、次の段階にまわしても差し支えないと考えた。「推論」については取り扱えなかったが、「推量」は扱っているので、やはりこの段階ではこのままでよいのではないか。「承認・否認」については「依頼」に対する「承諾」とは別の文を考えたのでこのレベルでは扱わなかった。「後悔」を表す文型は多少複雑で、中級にまわした方が適当だと判断した。「乾杯の音頭」についてはあえてどこにも入れていないが、これについては該当する文がおそらく一文だけだと考えられるので、テキストに取り上げる必要もないように思う。

この一覧表は、これを基に教材を作成することを前提として作成したものである。しかしまだ本文などは具体的に書き上げていないので、実際には微調整が当然必要になってこよう。また、一課あたりの内容がかなり多いので、もう少し話題を増やして分割できるところは分割すべきかとも考えている。しかしながら、大枠ではおよそ上記のような枠組みで取り敢えず初級の教材を作成してみたい。その際の基本方針としては以下のようなことが挙げられる。

1．導入は会話文によるものとし、その会話は全てが理解できる文章から構成される。

（コミュニケーション法においては、往々にして、コミュニケーションの意図さえ理解できれば、細部の理解まで求めなくともよいとする考えがあるのに対して。）

2．ここで導入される文は、複文の最初の段階までとし、動詞の活用形の点からは、ほぼ基本

的活用の型を網羅するものとする。

3．敬語については、とくに別に課を設けることはせず、最初のほうから慣用的表現として、徐々に導入するものとする。

4．例えば、間接受身形など、会話文中で扱える例は限られているが、練習の段階において、おなじ表現機能をもつと思われる文を多数取り扱う。

5．話しことば全体のスタイルとしてはいわゆる「です・ます」体をとり、くだけた会話、ことばの男女差、敬語表現などは主たる学習目標には掲げない。

6．コミュニケーションストラテジーについては表の「会話表現」のところに掲げたが、さらに充実させる予定である。

最後に、一つだけ導入の会話文を例としてあげておくことにしたい。

★第3課　休日の相談

場面：寮などの部屋の中　　人物：ルームメイト　AとB

A：Bさん、日曜日にハイキングはどうですか。

B：それはいいですね。比叡山はどうですか。

A：比叡山は　すこし遠いですね。

B：じゃあ、かつらぎ山はどうですか。

A：かつらぎ山は近いですが、不便です。

B：じゃあ、どうしましょう。あっ　この写真の山はきれいですね。

A：ああ、それは六甲山ですね。六甲山は遠くありません。便利ですよ。

B：そうですか、じゃあ　六甲山にしましょう。

応用1

A：Bさん、日曜日に映画はどうですか。

B：それはいいですね。このアメリカ映画はどうですか。

A：その映画は、すこし古いですね。

B：じゃあ、これはどうですか。

A：どれですか。ああ、そこの映画館はあまりきれいではありません。場所も遠いですね。

B：じゃあ、このイタリア映画はどうですか。

A：その映画は新しいですね。映画館の場所も遠くありません。

B：じゃあ、この映画にしましょう。

5．おわりに

学習者の多様化に伴う教材の多様化の必要性は最近ますます声高に叫ばれている。一方、教師の側では、かなりの意識変革をしなければ教育方法の変換は難しいのではないだろうか。やりなれた方法、教材でかつ学習者の多様化にも対応していけたら・・というのが、教師側の本音であるように感じられることが多い。実際従来の教材をコミュニカティブに利用するための補助教材などというものも出版されているから、この推察ははずれてはいないだろう[10]。

本稿で提案したシラバスは、こういったニーズにも応えられることを目標として、従来の「文型」を「機能」とならべて記したものである。しかしながら、本当は「機能シラバス」に「文型」を併記することが危険であることは承知の上である。つまり、「文型」とは言語を「構造」

として捉えた結果、分析されたものであるからである。言語の「機能」はそれぞれの文脈において、たとえ同じ文型、さらには同じ「文章」であってさえも異なってくるからである。そのことを承知の上でなお、「文型」にこだわって、いわば強引に「機能シラバス」と並べたのは、上記のような我々教師側の本音があるからである。

現在の状況はいわば移行期ともいえるもので、このような状態の時にはかなり柔軟な対応が必要とされるのではないだろうか。

今後はこのシラバスを基に教材を作り、それの使用を重ねたうえでさらに学習者のタイプ別にトピックや場面を組み換えていけるような、より可変なシラバスの可能性をさぐってみたい。

注

(1) 澤田田津子（1990）「日本語教授法の現状と将来について」『奈良教育大学紀要　第39巻　第1号』

(2) 最近数年の間に出版された初級教科書の中で、例えば以下のものは「機能シラバス」に基づいているとなっている。
ペガサスランゲージサービス編（1987）『Basic Functional Japanese』ジャパンタイムズ出版部
Susumu NAGARA（1990）『Japanese for Everyone —A functional approach to daily communication』Gakken
Tsukuba language group（1991）『Situational Functional Japanese』Bonjinsha Co., Ltd.

(3) 機能シラバスを提唱したのはvan Ekが代表的というわけではない。Wilkinsの伝達機能カテゴリー、Finocchiaroの機能カテゴリーなどが、織田　稔・萬戸克憲　訳M.フィノキアーロ・C.ブラムフィット（1985）『言語活動中心の英語教授法』大修館書店　にも記載されている。ここでvan Ekの機能シラバスを特に選んだのは、他と比べて、比較的日本語に応用しやすそうだったという理由も少なからずあった。しかし、とにかく一度、オーソドックスな機能シラバスの一つに、日本語の具体的例文を当てはめてみる作業のために、van Ekのシラバスを選んだのである。

(4) ここでのシラバスは、◎印以外、すべて　織田　稔・萬戸克憲　訳ibd. PP. 80～82による。

(5) 構造シラバスでは、一つの文型として取り上げられているのに、機能シラバスからみると、複数の機能になっているという文型の例は数多くある。例えば次のようなものもその例である。
「Vたいです」・・・構造シラバスではその意味は「希望、願望」となっている。
機能シラバスにおいては、「婉曲的な依頼」「誘いの受諾、または断り」「願望」というように、複数の機能において、同一文が現れる可能性がある。

(6) 構造シラバスによるテキストの中には、会話文による導入をせずに、このように1文ずつを並べて提示することで導入をしているものがある。以下の教科書がそうである。
Y. Yoshida, N. Kuratani, S. Okunishi（1976）『Japanese for Beginners』Gakken Co., Ltd.
海外技術者研修協会編（1990）『しん・にほんごのきそ』スリーエーネットワーク
A. Alfonso（1966）『Japanese Language Patterns』上智大学　等
また、国際交流基金（1985）『日本語初歩』の導入は、会話とも呼べず、かといって独立した1文ともいえないような、一回ずつのQ&Aによる導入となっている。

(7) ここで使用したテキストは以下のとおり。
海外技術者研修協会ibd.の「会話」部分、
文化外国語専門学校（1987）『文化初級日本語』の導入文（会話）部分、
O. Mizutani, N. Mizutani,（1977）『An Introduction to Modern Japanese』The Japan Timesの導入文（会話）部分

(8) 日本語教育学会　編『日本語教育機関におけるコースデザイン』（1991）凡人社pp. 198～206に、調査対象の日本語教育機関の教育においてとりあげられている「場面」を集計した資料があり、これも参考

とした。

(9) 日本語教育学会　編 ibd.の p. 199 には、次のような記述がある。「話題の面から光をあてて、日本語の教科書を分析しようという目的で、「初級」の教科書の内容にあたってみると、話題の面からの分析・分類が相当に難しいという判断に立たざるをえなかった。（中略）中・上級ではその内容からして、場面による分類は困難であり、話題からみることになった。」

このように、ふつう初級では場面が重要とされ、話題はその場面から生じた結果として出されるものが多い。しかし、ここではあえて初級の場合に、どういった話題があるのかを列挙してみた。

(10) 既成の教科書を主教材として使いながら、コミュニカティブな能力を強化する目的で出版された補助教材には、次のようなものがある。これらの主教材はいずれも構造シラバスにのっとっており、主教材の中ではオーディオ・リンガル法的な練習を多数こなすことになっている。

- 『24 Tasks for Basic Modern Japanese Vol. 1（'89）Vol. 2（'91）』ジャパンタイムズ（『An Introduction to Modern Japanese』（'77）の補助教材）
- 『たのしく聞こう』Ⅰ、Ⅱ（'91）文化外国語専門学校（『文化初級日本語』Ⅰ、Ⅱ（'87）の補助教材）

A Proposal for the Japanese Functional Syllabus

Tazuko SAWADA
(*Department of Language and Culture, Nara University of Education, Nara,* 630 *Japan*)
(Received April 30, 1992)

As for Japanese language teaching, research of the functional syllabus is in progress. This paper proposes a combination syllabus for Japanese, based on the functional syllabus written by van-Ek ('86).

The combination syllabus I show, consists of three parts. The first part is of course the functional syllabus. I show here some Japanese stentence patterns item by item. I also present communication strategies.

The reason why I show sentence patterns is that the traditional teaching method has been based on the structural syllabus. The functional syllabus is therefore somewhat difficult for the teachers to understand unless concrete sentences are provided.

The second part is a topic syllabus. The third part is a situational syllabus. These two syllabuses were decided by the research of various kinds of textbooks which have been already used.

Depending on this combination syllabus, I propose a table of contents for the elementary Japanese textbook.

In future, I'd like to improve this syllabus after trying out the textbook.